

平成27年度高エネルギー加速器研究機構技術職員シンポジウム

および同研究所技術研究会聴講参加について

小塚基樹、中西幸弘
工学系技術支援室 装置開発技術系

はじめに

平成28年3月16日から3月18日にかけて行われた平成27年度高エネルギー加速器研究機構技術職員シンポジウムおよび同研究所技術研究会に聴講参加したので報告する。

1. 職員シンポジウム

1日目の3月16日(水)に技術職員シンポジウムが開催された。

今回のシンポジウムのテーマは技術職員のプレゼンスの向上ということで、一人ひとりの努力と期間における位置づけと技術研究会などを通じたスキルアップの施策などを6研究機関より報告があった。(表1参照)

それぞれの研究機関において、組織上色々な問題もあるが、教員や事務機構に対しどのようにして技術職員の存在感をアピールしていくかについて報告・提言がなされた。

表1. 報告題目

時間	講演名	報告者
13:10~13:35	ユニバーサル段階の大学における技術職員の役割と機会	横浜国立大学 理工学部数物電子情報系学科 長谷川 紀幸
13:35~14:00	能力や実績に裏打ちされた存在感ある技術職員になるために -様々な役割と大きな方向性の理解、機会の有効活用-	北陸先端科学技術大学院大学 産学連携本部技術サービス部 東嶺 孝一
14:00~14:25	技術職員のプレゼンスの向上	高エネルギー加速器研究機構 山野井 豊
14:40~15:05	東北大学における職群と職群研修について(研修=スキルアップ=プレゼンスの向上という視点で)	東北大学 多元物質科学研究所 技術室 猪狩 佳幸
15:05~15:30	技術支援センター発足から4年間での研修体制整備について	長岡技術科学大学 技術支援センター 渡邊 高子
15:30~15:55	技術研究会の変遷と役割	分子科学研究所 鈴木 光一
16:05~16:45	意見交換会	

2. 技術研究会

二日目の3月17日(木)から翌18日(金)にかけて技術研究会が開催された。

開会式の後、KEK 技術賞受賞講演として、二人の技術職員から受賞テーマに関する講演があり、その後各分科会の発表があった。

1) 口頭発表

今回の発表は、五つの分科会を3会場で実施する関係から、第1分科会と第3分科会を同じ会場で、第2分科会と第4分科会を同じ会場で開催するという、変則的な形で実施された。

第1分科会は、17日の15:40より17:00と18日の13:00から14:50まで実施された。

表2. 第1分科会の発表題目

発表題目	発表者所属機関
相関陽子検出器の製作	理化学研究所
熱流体解析を用いた熱電変換効率評価装置用水冷部の設計検討	東北大工学部
放散虫ガラス模型の製作	東北大理学研究科
ガラス加工への挑戦	九州大学理学部附属工場
超伝導加速空洞用横型クライオスタットの製作	高エネルギー加速器研究機構
Belle II 測定器用 SVD4L6 ラダーの開発	高エネルギー加速器研究機構
LHC アップグレード用マグネット部品の試作について	高エネルギー加速器研究機構
「製造支援」依頼業務の紹介	高エネルギー加速器研究機構
メカニカルエンジニアリングサポートセクションの紹介	沖縄科学技術大学院大学

2) ポスターセッション (写真1)

ポスターセッションが、18日の10:30から12:00まで実施された。

但し、第1分科会の開催が午後からだったこともあり、ポスターセッション開始時間前に発表者と議論することが出来た。



写真1. ポスターセッション風景

3. おわりに

今回の技術職員シンポジウムと技術研究会へ参加し聴講したことで、各研究機関や大学が抱える問題や現状を知ることが出来た。また今回の参加目的のひとつに、当技術系に属するガラス加工セクションの他研究機関との技術交流の模索ということもあり、講演の空き時間を利用しガラス加工関係の技術職員との意見交換が出来、次年度以降の各大学間とのガラス加工技術交流のきっかけを得ることが出来た。

最後に、今回の技術研究会に参加の機会を与えていただいた、工学系技術支援室並びに関係者の皆様に感謝致します。